

令和7年度 第3回 中能登町立鹿西小学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和8年2月17日(火) 13:30~14:45
【会 場】	中能登町立鹿西小学校 多目的室
【出席者】	泉 知久、笠松 幹生 学校長、坂口 一男、四伊 深雪、中島 登、宮川 由里子 宮田 政雄(50音順) 学校代表者：西崎 唯一 教頭
【欠席者】	大森 宏一
【事務局】	学校教育課：山森担当課長、横山主事 生涯学習課：寺西主査、山口
【次回予定】	未定

【進行】鹿西小学校：西崎教頭

1. 開会あいさつ 《中島会長》

学校運営協議会も3回目となった。今回も、子どもたちのために、町のために協議していきたい。よろしくお願いします。

2. 学校経営報告について ～笠松学校長より、資料を基に説明～

①食育の成果

給食の残量が昨年度に比べ、約半分に減少。まだまだ残量が多いが、4月当初と比べると大きな改善。これまで苦手なものを全く食べなかった児童も、努力する姿が見られるようになり、食事時の環境も大きく改善している。

②異学年交流

大縄跳びや下級生が上級生の授業や活動を参観するなど、積極的に異学年交流に取り組んでおり、子どもたちの温かい関わり合いが育っている。次の学年への意欲づけにも繋がっている。

③トキ共生宣言への取り組み

令和8年5月31日に羽咋市で行われるトキの放鳥式に関連し、本校が町の代表校として選定されており、能登の震災復興も兼ねて「トキ共生宣言」を作成することになっている。県の講師による特別授業や、佐渡市でトキの共生に取り組んでいる方々とのリモート授業も実施。3月には能登地区の代表児童が集まり、宣言文作成の会議が予定されており、児童の意欲も大変高まっている。

④通学路の安全確保

学校運営協議会委員の皆さまのご尽力により、郵便局側の路側帯を整備していただいた。交通安全の面で大きな抑止効果が期待できる。

⑤サポート事業

クラブ活動や読み聞かせの教育支援活動をはじめ、3年生は地域の方によるリコーダー学習、4年生は福祉体験、5年生は防災士による防災学習、家庭科のミシン操作など、幅広いサポートをいただいている。学校からの発信としては、日ごろの感謝を伝えるため、5年生が収穫したコシヒカリを「ス5米(すごまい)」と名付け、お世話になった地域の方々へお配りした。子どもたちの発案による取り組みで、大変好評だった。

⑥次年度に向けて

キーワードは「自覚化」。児童も教職員も、当たり前のことを当たり前にする、自分たちの現状を正しく把握する、次年度の目標を明確にしていく。鹿西小学校には「一日生きることは、一歩進むことでありたい」という校訓があるが、「一日一つ、自分にできることを積み重ねる」という話を全校集会で伝えている。小さな成功体験を積み重ね、子どもたち自身の自信へと繋げていってほしい。

※意見等なし。

3. 授業参観・協議

①コミュニティ・スクールサポート実績報告 ～寺西主査より、資料を基に説明～

新たな取り組みとして、4年生が障がい者福祉について、聴覚障がい、視覚障がい、肢体障がいの方のお話を聞き、子どもたちが実際に体験してみるという学習を実施。1・2学期の学習をふまえ、鹿寿苑にご協力いただき、自分たちの考えたプログラムを高齢者へ発表。施設の皆さんには「とても良い機会だった。」と喜んでいただいた。5年生の授業参観では、能登部上区防災士会の方々に入っただき、防災学習を実施。地震の際の「必要なもの」「不必要なもの」などについて詳しく知ることができ、充実した学習になったのではないかと。

②学校運営協議会規則の改正について

近年、学校現場の働き方改革が進められており、石川県でも、学校管理職の「教職員に対する業務管理の徹底」について、県の教員育成指標が改正。今後、学校経営ビジョンに「教職員の業務管理や健康確保」についてどう取り組んでいくかも盛り込み、学校運営協議会で承認していくという流れになっていく。学校経営・学校教育の質を落とさずに、どうやって教職員の負担軽減を図っていくのか。「学校が担うべき業務」「学校以外が担うべき業務」「教師以外が積極的に参画すべき業務」、そして、「教師の業務ではあるけれど負担軽減を進めるべき業務」。学校として、教育委員会として、何ができるかを具体的に示していくことが求められている。

※意見等なし。

③令和8年度の教育支援・環境整備について ～笠松校長より説明～

●見守り隊とスクールゾーンについて

登校時、徒歩通学の児童より、車での送迎が非常に増えている。本校では町駐車場を乗降場所としているが、スクールバスや地域の方の車も重なり、時間帯によってはかなり危険な状況になる。「朝の時間帯は一方通行にする」など、より安全確保ができるようルールづくりを検討中。見守り隊については、現在把握できている方は3名。民生委員児童委員の会議にて、「ベストや旗を持って立つだけではなく、畑仕事をしながらの見守りや、ベストを着ていただくなど、それだけで抑止効果がある。」とお伝えし、通学路の説明と協力をお願いした。心ある方が少しずつ増えてくれればありがたい。

●防災教育について

来年度から、6年生で20～30時間程度のまとまった防災カリキュラムを組みたいと考えている。本校は避難所ではないが、土砂災害の危険がある地域とされているので、まずはその知識を学び、将来的には、子どもたちから地域へ発信できるような取り組みや、地域と共同の避難訓練も検討していきたい。今年度は5年生の学習で能登部上区防災士会の方に来ていただいたが、来年度からは6年生の総合的な学習の時間を活用して、継続して実施していきたい。

※意見等なし。

4. 学校評価

●インフルエンザで3学年が閉鎖になっているが、主な原因は？

⇒家族感染や習い事で潜伏していたものが、学校で一気に発症し広がった。学校としては、「たれば」ではあるが、早い段階で早退させていればここまで広がらなかったかもしれないということも感じている。

●インフルエンザの予防接種の接種率は？

⇒学校では把握していない。

4. 閉会あいさつ 《大森副会長よりメッセージ（紙面にて）》

今年度の委員会や授業参観を通して、子どもたちと先生方の努力を強く感じた。後半に入り、子どもたちの成長がより一層見られ、大変頼もしく思っている。3年生と鹿西消防団の授業でも主体的に取り組み、通学路でのあいさつもすっかりできており、日ごろのご指導の成果だと感じた。今後とも、地域の大切な子どもたちへご指導のほど、よろしくお祈いします。